

岐阜県嚥下障害研究会  
**モグモグ通信**  
 No. 27 (2016. 1 発行)

3月は成人領域、小児領域の2研修会を予定しています。



発行所：岐阜県嚥下障害研究会  
 事務局：土岐市立総合病院 ST 室

## 小児領域研修会のこれまでと未来



各務原市社会福祉事業団  
 各務原市福祉の里 支援課長  
 安田 香実 (言語聴覚士)

長年、小児領域研修会の世話人をさせていただいておりますが、昨年11月の研修会で、なんと通算45回目を迎えました！年平均3～4回の開催ですので、平成29年度には50回目を迎えることになる予定です。

小児領域研修会は、15年ほど前から始まりました。当時、小児領域での摂食支援の指南書といえば、金子芳洋先生のバイブル的なご著書「食べる機能の障害—その考え方とリハビリテーション—」医歯薬出版ぐらいしかなく、それぞれが手さぐりの状態で、支援を必要とするお子さんと、日々向き合っていました。私もその一人でした。

(私は当時福祉の里たんぽぽに異動したばかりでした) そんな時、希望が丘学園(現希望が丘こども医療福祉センター)の柴田先生と田本先生から勉強会のお誘いをいただきました。岐阜でも専門的な研修を受講できるようにと、最前線でご活躍の先生方をお招きして、研修会を始めました。世界が急にパーッと開けた感じでした。

小児領域研修会では、これまで、二つのことを大事にしてきました。一つは、『お口だけでなく、子どもをトータルに見る』という視点。もう一つは、『ライフステージにおける、縦と横の連携』という視点です。

二つの視点に基づいて、関連領域(ポジショニング、コミュニケーション、医療的ケアなど)の研修も積極的に行ってきました。座学ばかりでなく、参加型の症例検討会や道具を作るワークショ

ップを行う中で、参加者同士が交流する機会も作ってきました。お陰様で、参加者は、所属・職種とも多岐にわたり、また、県外からの参加者も増えています。最近では、成人を対象とする福祉事業所の支援員さんの参加もあり、幅広いニーズがあると実感します。

これまで、たくさんの講師の先生方や、参加者の皆様とお知り合いになれたことは、私にとってかけがえのない財産となっています。一方で、課題も見えてきました。今、私が感じているのは以下のような課題です。

- ① 乳幼児期の専門的支援を受けられる地域格差
- ② 支援学校への専門職の介入と給食の食形態
- ③ 学齢期の思春期シフトと、成人期の高齢化(早い老化)への専門的な支援
- ④ 放課後デイサービスや日中一時支援事業所利用の増加に伴う連携体制

一つずつの詳しい説明は省きますが、特に、②の課題は、学校は専門職の継続した支援を必要としているのに対し、それに応えられる人材がなかなか見つからないのが現状です。また、学校では、普通食を二次調理するのがほとんどで、嚥下食の考え方がなかなか導入していただけないようで、先生方の労力は大変なものです。

また、障がい者の高齢化(早い老化)による摂食嚥下の問題は、全国的にもクローズアップされており、今後の重要な課題と言えます。

こうした時代の流れをしっかりと把握しつつ、これからも、内容を吟味して研修計画を立てていきたいと考えます。最後に、世話人も高齢化してきました(!)

若いスタッフ募集中です！  
 今年もよろしくお願ひします。



## 第2回 研修会レポート

### 「正しい位置を知っていますか」

社会医療法人厚生会 木沢記念病院  
総合リハビリテーション部  
言語聴覚士 中村千恵

平成27年9月26日に土岐市立総合病院で開催された、岐阜県嚥下障害研究会第2回研修会（成人領域）に参加させて頂きました。今回は摂食嚥下リハビリテーションに携わる者なら知らない人はいない、あの「K-point 刺激法」を提唱された小島千枝子先生に「症状に応じた摂食嚥下訓練の実際」というテーマでご講演頂きました。講演ではまず、実際にゼリーやおかきを食べながら、食べ物を認知することの大切さを学び、食事や水分を摂取するときの舌の動きを体験しました。その後は直接訓練、スプーンを選択、介助法、開口困難症例の対処法、認知障害のある人への対処法、K-point 等について盛りだくさんの内容をお話頂きました。動画をみながら実際に自分や他人の口腔内を刺激することで、正しい位置やスプーンの入れ方・抜き方、機能訓練としての考え方を学ぶことができました。これまで「このあたりかな？」と思いながら刺激していたK-pointが、正しい場所から少しズれていたことに気づき、大きな収穫となりました。また口蓋の高さと口腔内処理パターンという最新の研究についてもわかりやすく噛み砕いて説明して頂きました。ゼリーを噛んで食べてしまう私は高口蓋の可能性があり、押しつぶして咽頭に送り込む行為が苦手であるということを知りました。そのため、歳を取って嚥下機能が弱ってきたら、教えて頂いたように意識して飲み込む「Think swallow」を実践しなければと思います。教科書やハンドブックに載っている知識を直接教え

日時：平成27年9月26日（土）14時～16時  
会場：土岐市立総合病院 核医学棟 大会議室  
内容：「症状に応じた摂食嚥下訓練の実際」  
講師：小島千枝子先生  
（元 聖隷クリストファー大学  
リハビリテーション学部 言語聴覚学科 教授）

て頂いたことで、摂食嚥下リハビリテーションの考え方や方法をたくさん吸収することができたと感じました。今回学んだことを臨床で活かし、知識や技術を深めるよう努めていきたいと思えます。貴重なご講演を頂いた小島先生、研修会を主宰して下さった豊島先生、加藤先生、スタッフの皆様方、本当にありがとうございました。

### K-point刺激法の臨床的意義

- ①開口を促す手段として
- ②嚥下反射誘発の手段として
- ③指示理解困難な症例にも使うことができる訓練手法

**正しい部位を触ってください**  
**強い刺激で粘膜を傷つけないで**  
**球麻痺には効きません**

講演資料より 抜粋

### 会費納入のお願い

納入金額：年会費 1,000円

未納者は宛名ラベルの西暦横に未と記しています。

振込先：郵便振替 加入者 岐阜県嚥下障害研究会  
口座番号 00890-3-114142

- \* 通信欄に「〇〇年度分会費」とご記入願います。
- \* “振替用紙の控え”をもって 会員証とします。
- \* 2年間会費を滞納すると、退会となります。

（注）未入会者は 入会申込み手続きが 別途必要！  
問い合わせ：土岐市立総合病院リハビリテーション部

言語聴覚士 加藤まで

メール または FAX 0572-54-8488

Mail: gifukenengesyougaikenkyukai@yahoo.co.jp

## 第3回 研修会レポート

### 小児領域研修会に参加して

山田病院 リハビリテーション科  
言語聴覚士 安江えみ

今回の研修会は、作業療法士の辻薫先生に「活動の工夫で子供を元気に！家庭・学校・園での日常生活を考える」をテーマにお話ししていただきました。実技・演習もあり、知識を深めつつ、体感しながら学べる内容でした。

午前中は脳性麻痺児中心の講義で、両親援助や家庭療育の考え方を学びました。私は普段、病院の個室で月に数回 40分、お子さん方と接する立場にあります。目の前にいるお子さんが、課題ができるようになったか、一緒に遊んで笑ってくれるかに意識が向きやすくなります。そこから生活にどう変化をもたらすかという視点が足りないと感じました。

また心地よい親子関係を作る手助けとして、触られて気持ちいい、やりたいことを実現できる使いやすい身体を作るための、ハンドリングの演習も行いました。ハンドリングを体験して、自分の身体や感じ方が変化したことに驚きました。

加えて、丁寧な援助を積み重ねた結果、お子さんやご家族にどのような変化があるのか、症例のビデオを通して学びました。発達的な変化にも驚きましたが、出来る事が増えていくお子さんの嬉しそうな表情と、見守るご家族との信頼関係など様々な変化がみて取れました。

午後は発達障害児中心の講義で、お子さんが日常生活の中で困っている点を、姿勢運動や感覚調整から考えていきました。

ご家族から「なんとなく不器用」「走り方がぎこちない」とご相談をよく受けます。それがどこ

日時：平成27年11月29日（日）  
会場：岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター  
テーマ：「活動の工夫で 子どもたちを元気に！  
家庭・学校・園での日常生活支援を考える」  
講師：大阪発達総合療育センター  
（特別支援教育専門）作業療法士 辻 薫 先生  
日程：9:30～ 9:35 オリエンテーション  
9:35～12:20 〔講義&演習〕  
～脳性マヒ児を中心に～  
12:20～13:30 昼休憩  
13:30～16:15 〔講義&演習〕  
～発達障がい児を中心に～

に苦手さがあって、どう支援していくのか明確にわかる講義内容でした。

保育園の未満児クラスでの取り組みも興味深く、小さい頃から使いにくい身体を代償的に使わせるのではなく、環境調整や遊びの中でどう使いやすい身体を作っていくか演習を交えてお話しいただきました。ここでもハンドリングの有効性と、環境や道具の工夫を実感しながら学びました。

1日では短いと感じるくらい、内容の濃い研修会でした。この人といると心地いい、うれしいと思ってもらえる支援をしていけるように、これからも研鑽していきたいと思えます。



# 第18回学術講演会 東濃大会 27.11.22

みんなで作ろう、みんなで繋がる、みんなの思い！！  
～病院から施設、在宅まで切れ目ない支援をするには～



菊谷 武先生

## 《午前》特別講演 「地域で“たべる”をささえるということ」

講師 菊谷 武先生

日本歯科大学 教授 口腔リハビリテーション多摩クリニック院長（歯科医師）

## 《午後》討論会 「そこまで言っていていいんかい」



### コメンテーター

二宮保典氏（岐阜県医師会 常務理事）

玄景華氏（朝日大学歯学部 教授）

豊島義哉（研究会会長）

- 議題1 食べない人への対応“嚥下機能低下、拒否、意欲低下、ため込み”
- 議題2 連携“職場、地域”をするにはどうすればいいか

### ☞サンプル配布



品川大会長

## 第18回 岐阜県嚥下障害研究会 学術講演会・総会



総会で新役員（理事・監事）選出 任期28年4月～31年3月

### — 編集後記 —

ご後援を頂きました 岐阜県、岐阜県医師会、岐阜県歯科医師会、岐阜県看護協会、岐阜県栄養士会、岐阜県理学療法士会、岐阜県作業療法士会、岐阜県言語聴覚士会、岐阜県診療放射線技師会、岐阜県身体障害者福祉施設協会、岐阜県歯科衛生士会、岐阜県デイサービスセンター協議会、岐阜県居宅介護支援事業協議会、岐阜県老人福祉施設協議会、岐阜県老人保健施設協議会様には深く感謝申し上げます。（TOYO）